

建築家をめざして No.12

(社)日本建築家協会 沖縄支部 幹事

勇気を持って挑戦しよう!! 伊良波 朝義 有限会社 義空間設計工房

大学3年の夏、憧れの東京へ友人の兄を頼って2カ月滞在することが叶った。経済的に恵まれた環境ではなかったため、夜は警備のアルバイトをしつつ、休みの日には東京見物に併走する日々を過ごした。東京に来て数日後、丹下健三設計の代々木第一体育館を訪ねた際、建築の圧倒的な力強さや美しさ、建築の持つ力に感動し、建築家になることを決意したことを今でも憶えている。

建築家になると決めたからには、志が近い建築家のもとで基礎をしっかりと学びたいと考え、県内の設計事務所へバイト

をしながら情報を収集し、大学図書館に通っていろいろな建築家の作品集や出版物に目を通し、内井昭蔵著「健康な建築」に出会う。建築に対する考え方や取り組み姿勢に感銘し、この方に師事したいとの思いが日々増していった。東京の事務所へ入所するにはどうしたらよいか、どのような行動をとればよいか分らないまま、

内井先生へ想いを伝えたくて、大学の先生に添削して頂きながら3度手紙を送りたりした。程なくして、

内井事務所のスタッフが浦添市美術館建設のため現場に常駐していることを知り、勝手に現場事務所を訪ねては、スタディー模型や完成模型のお手伝いをさせて頂いた。

大学4年の夏、念願の

若いからこそできること

オープンデスク制度(企業実習)の機会を得て内井事務所へ。全国各地から集まってくる優秀な学生に交じり、模型づくりやトレース作業、雑務と精力的に活動した成果が認められて入所することができた。事務所では、全国各地の集合住宅や大学、美術館、都市マスタープラン計画など、普段経験することのできない多岐にわたるプロジェクトを通じて多くのことを学ばせて頂いた。

沖縄に戻ってからも東京時代に学ばせて頂いたことを忘れることなく、高いマインドを持って風土に根ざした建築づくりに日々励んでいる。スタッフを始めこれから建築家を目指す若い方々へ、建築の持つ力を伝えられればと願ってやまない。

(写真は筆者提供)



多くの事を学んだ新人時代